



「頭一つで」

日本の自然の素晴らしさは、海外から来て初めて見た方ほど、より感動することが多いと思います。私が来日した時は、やはり生まれ育った環境とは違って、見慣れていなかった世界はどうしても輝かしく見えました。

しかし、長い年月が過ぎると、母国を懐かしく想い、何気ない時に当たり前だった自然を思い出すことが増えていきます。ある意味、来日した時の感動と逆転するかのようです。

ところで、ヨーロッパでよく見られる野鳥や蝶などの一部は、日本でもよく見られます。例えば、マガモやハイタカ、アカタテハは両地域共通種です。これらを見かけた時に「世界が繋がっているんだな」と思ったりします。

一方、ヨーロッパでは普通種ですが、日本では旅鳥や迷鳥のため、滅多に見られない珍しい野鳥もいます。そのような種類がどこかに現れると、見たくて大勢が集まるほどの「人気者」になる場合もあります。思い浮かぶ鳥類の中で、ヤツガシラの話をしたと思います。

ヤツガシラは、ユーラシアに広く分布する野鳥で、縞模様、曲がった嘴や変わった冠羽が特徴です。その冠羽は、広げたり閉じたりすることができて、扇子のようになっています。冠羽を広げた時の姿が「八つの頭」に見えたことがヤツガシラという名前の由来だそうですが、なんとも言えない例えだと正直思います。ちなみにスペイン語は「アブビジャ」と呼ばれ、より可愛いらしい響きに感じます。

ヤツガシラは基本的に旅鳥で、春の渡りの時期に少数が日本を通過する程度と、かなりレアな野鳥です。あきる野を含めて全国各地で飛来記録がありますが、私は日本で一度も見たことはありません。一方、母国のスペインでは、オリーブ畑や湿地帯の林など、様々な環境で頻繁に見かけます。

一昔前の秋のある日、知り合いに「ヤツガシラいる？」と聞かれ、てっきりヤツガシラを飼育しているのか？と思いました。そうしたら、芋を見せられて、その芋の品種が「やつがしら」であることを教わりました。まだまだ未熟な私がやや恥ずかしい思いをしたのは仕方ありません。野鳥のヤツガシラよりも、その凸凹な芋はある程度「八つ頭」に見えて納得しました。日本にはこのように「被る名前」が多く、笑いの元になることが多いですね。

4月はまさにヤツガシラなどの旅鳥が日本に現れる時期なので、今度こそ美味しいお芋ではなく、市内でもあの「美しい鳥」に出逢えるチャンスです。ご興味がある方は是非お散歩中などに自然をよく見ると、日常をより一層楽しめるかもしれません。

(パブロ)



ヤツガシラ